



第12回 早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 学生演劇公演  
早稲田大学劇団あはひ参加作品

# SONNET

## ソネット

2019.9.14(土)18:00 開演 / 9.15(日)18:00 開演  
開場は開演の30分前、19:00 終演予定

みのかも文化の森 / 美濃加茂市民ミュージアム 生活体験館 (まゆの家)

※雨天時：エントランスホール

入場無料・予約不要・全席自由



主催：みのかも文化の森 / 美濃加茂市民ミュージアム、早稲田大学文化推進部文化企画課  
協力：坪内逍遙博士顕彰会

原典：『十四行詩抄』

W. シェイクスピア著、吉田健一訳

(『訳詩集 葡萄酒の色』岩波文庫所収)

# SONNET

ソネット

上演台本・演出：大塚健太郎

舞台美術・スチール：Vanessa Woo 音響：増田尚則

照明：瀬沼英恵 宣伝美術：富田粥 Web：相馬称

制作・ドラマツルク：小名洋脩、高本彩恵

企画：劇団あはひ 演出協力：早稲田大学詩人会

出演：上田悠人

東岳澄

古館里奈

松尾敢太郎

みのかも文化の森 / 美濃加茂市民ミュージアム

生活体験館（まゆの家） ※雨天時：エントランスホール

2019.9.14(土)18:00 開演 / 9.15(日)18:00 開演

開場は開演の30分前、19:00 終演予定

入場無料・予約不要・全席自由

吉田健一は、翻訳は一種の批評である、と書いた。私が演劇において志向しているのは、こんなことかもしれない。つまり、落語や、能や、今回でいえば、シェイクスピアの書き連ねた詩群を、現代の演劇の言語に「翻訳」すること。そしてそれが同時に、それらを批評する言語にもなっていること。154篇のソネットを通して、彼は誰に対して、なにを語ったのだろうか。そんなことにはあまり関心がない。それよりも、テキストそのものが、現代日本に生きる私たちになにを語りかけてくるか。それだけを見定める。

(大塚健太郎)

## 劇団あはひ

2018年6月に旗揚げ。

落語や能など、古典を下敷きとした創作を中心に行う。

2019年3月に上演した第2回公演『流れる 一能“隅田川”より』が、〈CoRich 舞台芸術まつり！2019春〉にて、グランプリを受賞。

2020年2月に下北沢本多劇場にて旗揚げ公演の再演を控えている。

HP：<https://gekidanawai.com>

Mail：[info@gekidanawai.com](mailto:info@gekidanawai.com)

Twitter：[@gekidan\\_awai](https://twitter.com/gekidan_awai)

## 「早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 学生演劇公演」について

2007年に、美濃加茂市と早稲田大学は、文化交流協定(※)を締結し、2008年より毎年、早稲田大学の学生による演劇公演を実施しています。本企画は演劇・舞台芸術の発展に多大な貢献をした坪内逍遙の精神に倣って開始されました。学生劇団が、みのかも文化の森 / 美濃加茂市民ミュージアムに6日間滞在しながら稽古をし、野外で作品を発表します。美濃加茂市の自然を活かした、ここでしか見られない公演をお楽しみください。

(※)美濃加茂市出身で早稲田大学で教鞭を取った坪内逍遙博士、津田左右吉博士を共通項とし、文化事業について協力し合うこと、相互発展と地域社会の活性化、学問研究の向上に寄与することを目指し締結

## アクセス

(鉄道)

JR名古屋駅から美濃太田駅まで特急で約40分

美濃太田駅北口から徒歩約17分

(自動車)

名神高速道 小牧ICから約35分

中央高速道 多治見ICから約35分

東海環状自動車道 美濃加茂ICから約5分

(あい愛バス)

「文化の森公園線」JR美濃太田駅北口から約8分

(詳しくはあい愛バスのHPをご覧ください。)

<http://ai-ai-bus.com>



## お問い合わせ

みのかも文化の森 / 美濃加茂市民ミュージアム

〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1

TEL:0574-28-1110 FAX:0574-28-1104

Email:[museum@forest.minokamo.gifu.jp](mailto:museum@forest.minokamo.gifu.jp)

URL:<http://www.forest.minokamo.gifu.jp>